

サステナブルな情報サービスをめざして —図書館情報学領域の人材育成—

伊 藤 真 理 (図書館情報学領域)

図書館教育を育む責務

図書館情報学領域の伊藤真理教授。前半は日本の司書養成の現状、後半は音楽図書館サービスを例に、求められる図書館司書像について語りました。

私立大学において、司書課程を設置することはいまや一般的になっています。しかし、その教育はあくまでも“図書館サービスの担い手としてスタートラインに立つための教育”。資格を取得してようやく、実務を通じて一人前になるための勉強をスタートすることができるのです。そのため今、社会では司書として働く人たちのための研修機会を拡大していくことが求められています。そのニーズに応じていくのが私たち愛知淑徳大学です。中部地区唯一の図書館情報学の教育を提供している教育機関として、私たちには今後も人材育成の先頭に立って司書教育を任せていく責務があると、感じています。

最適な情報を提供する力

それでは具体的に、どのような図書館司書が現場では求められているのでしょうか。私の専門である音楽情報サービスを例に考えてみたいと思います。たとえば1960年代のアメリカで流行した「アーチーズ」というバンドは、アニメ「The Archie Show」内だけに存在する架空のグループです。アーチーズの代表曲「シュガー・シュガー」は、実際はロン・ダンテという人が歌っています。しかし図書館利用者が「シュガー・シュガー」の曲を探す場合、実在しないバンドである「アーチーズ」というキーワードで探す可能性の方が高いでしょう。この例からも、一つの情報に対して複数の情報が絡み合っていることがわかると思います。情報を手にするまでに時間がかかる可能性があるのです。利用者が何を求めているのかを的確に読み取り、素早く効率的に情報を探し、提供する力が司書には求められています。